

嶋満神社便り

平成二十七年十一月号 (第十七号)

発行 嶋満神社奉賛会

続々、「八幡さん」ってどんな神様？

当社の祭神は「譽田別尊：ほんだわけのみこと」と「市杵嶋姫命：いちきしまひめのみこと」の二神であると、謂れの看板に書かれています。市杵嶋姫命は福岡県宗像市、宗像大社の宗像三女神（むなかたさんじよしん）の内の一神です。

「八幡さん」は通常、譽田別尊、比売大神（ひめのおおかみ：宗像三女神のこと：后神としての位置づけ）、息長帯姫命（おきながきながたらしひめのみこと：神功皇后のこと、応神天皇の母）の三神がセットとなって祀られます。しかし宗像三女神だけ、あるいは三女神の内の一神だけを主祭神とする神社も全国に数多くあり、特に市杵嶋姫命は一番人気があるようです。

そして我が浮島の隣、市場の八幡さんも「市杵嶋姫命」を祀る「市姫神社」です。安芸の宮島、厳島神社も「イチキシマ」が転じたものと言われていますが、こちらは三女神がセットでご祭神となっております。

どうしてこういう祀られ方になったのかについては長い間の習合、分霊、合祀などの歴史、そして明治になっての神仏分離の影響があったものと思われませんが、詳しい話は割愛します。

古代の浮島は…？

さて正式な八幡さん勧請以前の浮島の祭祀はどのようなものだったか。

これについて故、高橋卓郎氏は次のように述べておられました。

「古代浮島は間違いなく宗像三女神の一つだ。あと一つは市場の八幡さん、もう一つはおそらく小倉の阿良須神社ではなかったか：。」



玄界灘を大陸へ向かって伸びる宗像大社の辺津宮、中津宮、沖津宮の三社の如く、古代舞鶴、志楽郷の海辺の三つの社が連携して海人たちの祭祀をつかさどっていた光景が、高橋先生の遠い視線の先には見えていたのでしょうか。

「白糸湾の守り神」である我が八幡さんは、往古より海路を鎮護する神として、人々から篤い崇敬を受けていたことが、うかがえます。

八幡さん世界遺産へ！

今年七月、宗像、沖ノ島などの地域は2017年の世界文化遺産への登録を推薦されることが、文化庁によって決定されました。楽しみですね。



宗像大社辺津宮 (HPより)

当社の「神徳

最後に一番大事な当嶋満神社のご神徳についてまとめておきたいと思えます。

○国家鎮護：…応神天皇との習合で皇祖神となった。大仏建立に大いなる貢献をした。歴史に名高い「道鏡事件」の際に宇佐八幡が国体を守る託宣を下した。元寇の際、筥崎八幡宮が神威を發揮し神風を吹かせた。当社にも敵国降伏の示現ありとの伝承。

○海上安全：…天照大神が宗像三女神に筑紫から半島に至る海路に天下って歴代天皇を助けよ、との神勅を下された。三女神は応神天皇に始まると思われる大陸との文化交流による新しい国造りのための交通路を守護した。

○鉄道、交通安全：…宗像三女神は国民のあらゆる道を導く最も尊い神、道主の貴（みちぬしのむち）と呼ばれる最高神であると日本書紀に記載。

その他、后神の存在や、神功皇后が応神天皇を身ごもったまま三韓征伐を成し遂げたことから縁結び、安産、子孫繁栄の神とも言われています。

◎本年度例祭、無事終了

去る八月二十三日、浮島会夏祭りとともに無事終了いたしました。ご協力ありがとうございました。